

被災地と、みんなを結ぶ

## つながろう！絆・連合



発行：連合（総合組織局・連帯活動局）

電話 03-5295-0513 FAX 03-5295-0547 [rentai@sv.rengo-net.or.jp](mailto:rentai@sv.rengo-net.or.jp)日本労働組合総連合会（連合） <http://www.jtuc-rengo.or.jp/>

# “風評” “風化” に負けない！

## ～被災地に「来て」「買って」「思って」ください～

3月7日、連合は中央執行委員会の前段に、連合岩手・連合宮城・連合福島の3県より、大震災から2年を経過した現地の現状と課題について説明を受けました。

冒頭、古賀会長は「震災から学んだことを我々は決して忘れてはならない。常に被災地のことを考え、自分たちに何ができるのかを考え続け、連合全体で風化させない取り組みが求められている。」と訴えました。3県からの説明概要は次のとおりです。

### ◆連合岩手の砂金会長より

日々、復興に立ち向かっている住民の姿や力を全国の仲間にも見て頂きたい。

津波は一瞬のうちに全てを奪って行った。「自然を甘くみるな」が最大の教訓であり、防災意識をしっかり持たなければならない。人口流出、住居問題、高台移転、失業問題、仮設住宅での生活、高齢化など数々の問題を抱えているが、時間との戦いである。「ふるさとに戻りたくない」とのアンケート結果もあり、将来の復興の担い手不足も懸念される。自治体でもメンタル問題、学校・医療、商店・まちづくりなど課題が山積であるが、一つひとつ解決して前へ進んでいきたい。「風化」と「風評」の2つの風からの脱却が大事である。街を元通りに戻すのではなく、「新しくつくる」との気概で住民の皆さんは頑張っている。

### ◆連合宮城の山崎会長より

がれき処理も進み、鉄道も復旧しているが、未だ1300名の方が行方不明であり、月命日には一斉捜索を行っている。10万人の避難者の方が仮設に住まわれ、8千人が県外へ避難されている。災害公営住宅の建設が300戸となかなか進まない。失業者は減っているものの雇用のミスマッチもあり、中高年女性の仕事がない。さらに人口流出もあり、子どもたちも含めて宮城に戻ってくるのか懸念している。心のケアなどの問題は深刻である。産業復興に関しては、中小企業グループ補助金が地元で評判が良い。復興まで長い時間がかかるだろうが、少しでもスピードアップできるようにバックアップをお願いしたい。被災地を訪ねて頂ける取り組みを継続するようお願いする。

### ◆連合福島の今泉事務局長より

風評被害は深刻で、福島県民への差別、人権問題にも発展しかねない。未だ16万人の方が避難されており、一日も早く故郷に帰還してもらいたい。それらを払拭するためには、目に見える形で除染が進められ、真の安心・安全が確保されなければならない。双葉町を中心とした財物補償と居住権問題も深刻である。また人口減少が経済を逼迫させている。地域に根ざした持続力のある産業再生と雇用創出が必要である。自治体は避難者への対応に追われ、心身疲労と求職者の増加で、職員不足による負担も大きい。県内の地域間格差も広がり、限界集落も拡大している。ぜひ復興に向けた継続的な政策支援をお願いしたい。また相馬市は元気を取り戻し、“復興の姿”がみえてきたので、ぜひ訪ねていただきたい。



皆さんもぜひ、被災地に思いを馳せて、“こんなことやってみよう”との声を連合本部へ寄せてください。

## ★活動紹介★

# 復興のスタートは“子どもたちの笑顔”から ～釜石の子どもたち～

新日鐵住金釜石労組では、青年女性を中心に「釜石元気づくり委員会」を結成し、さまざまな活動を行っています。メンバーの中にもご自身が被災されてご家族やご友人を亡くされた方も多くいらっしゃいますが、心の傷を乗り越えて、“復興のスタートは子どもたちの笑顔から”との思いで全力投球しています。釜石労組から本年2月にその活動報告を頂きましたので、一部をご紹介します。

### ◆釜石市立小川幼稚園を訪問



被災された子どもたちが10名ほど転入している幼稚園を訪問し、自分たちならではの「鉄を使ったおもちゃづくり」を開催しました。園長先生の計らいで、親子参観日にバッティングさせ「親子教室」とし、製作した作品は幼稚園の文化祭でも展示されました。



#### ○現場からの声(その1)

あの日から2年が経過した現状は、しっかりと前を向けた方、暗闇から出口が見えてきている方、まったく変わることができない方など、時間の経過とともにそれぞれの立場に違いが来ています。現地でさえこの格差ははっきりと見えている状況です。今後も「風化させない」活動に積極的に協力していきます。

### ◆小川幼稚園の製鐵所見学会



前述の「親子教室」が縁で、子どもたちが「お兄さん、お姉さんの働くところが見たい！」と声をあげ、見学会を開催することとなり、私たちのものづくり現場をしっかりと見てもらうことになりました。



#### ○現場からの声(その2)

今後は、仮設周辺の花壇づくりや、復興メッセージ看板の書き換え、子どもたちとのふれあい交流会などの企画があります。とりえず今は、雪解けを耐え忍んでいるところです。





## ◆小川仮設団地の子どもたちとの交流会



小川仮設団地とその周辺に住んでいる子どもたちを対象に「ふれあい交流会」を開催しました。子どもたちにとっても今回の大震災の爪痕は非常に深く、ボランティア活動にあたって、不安が大きかったのですが、結果的には、笑顔あふれる子どもたちの表情にむしろ自分たちが救われました。



◆ 以上 ◆

本ニュースは、全国の皆さんの声をベースに発行していきます。「こんな取り組みしているよ」「今、現地はこうなっている」などの声や写真をぜひお寄せください。お待ちしております！

連合連帯活動局・西野 TEL03-5295-0513 FAX03-5295-0547 [rentai@sv.rengo-net.or.jp](mailto:rentai@sv.rengo-net.or.jp)